

北村さん傍観すること能わず。田の所有者である若い男の人が加勢に素てくれる。その人のシヤベルさばきの巧いこと！やはり専門家にはかなわない。そのの／＼分位でポーラは地上へ生還。ポーラーノ本3万円也は無事ととのさやにおさまりました。シヤベルは塵分よれよれしかつたけど、とうとう前歯が折れました。

崖の高さを計ろうとすると蛇がドスンと落ちてきた。一番逃げ足の早いのは長谷川さん。一番落ちつきはらつてゐるのは宇野さん。先生は2番落ちつてゐる。蛇は2匹いた。アヅエックで散歩をしていたらしい。

今日の勉強はこれでお終い。青藤、北村のカップルと細谷、中神のカップルは東北へ。草野さんは単身那須岳探検へ。小玉さんは大田原市のさる方の所に。(お土産はとうがらしの佃煮だつたとかや)あとの残りは東京に向う。

以上のごとく、この巡検の表面をつらつらつらぬてみました。実際はとつとつとよかつたのです。ええ。宿はやつぱり上洲屋でした。

後輩諸嬢へ

坂井和子

(昭和28年度卒)

このたび、先輩として一筆書いてほしいとの御依頼を受けましたが、いろいろ御注文がむずかしくて、限られた紙数に何をどう書いてよいやら、文才のない悲しさで迷つてしまいます。ただ、御注文の中には、このごろまた教師になる人が多くなつたとかで、そういう面で体験を語つてほしいということがございましたので、そのことを中心にまとめてみたいと存じます。

実のところ、私などは教師になるつもりは毛頭なかつたのに、ひよつとしたことで向となくなつてしまつたので、大変けしからぬ話ですが、特に教育に対する情熱とか抱負などといったものもなく、この道にとび込んだわけでございますが、以来十年、今ではすっかりこの仕事に打ち込んでゐる自分を見出して、我ながら感心している次第でございます。ことほどさうは、この教育という仕事は、これに手をつけた者をとらえてはなさない何か不思議な魔力を持つてゐるように思われます。

それは結局、生きとの相手の仕事だからでしょうか。とにかく、いいかげんな気持、お座なりの態度ではどうもいやつていけません。そういう意味では大変きびしい仕事ですが、またそれだけに、いやおうなしにファイトをやさざるを得ませんし、張り合いのある仕事とといえましょう。

こういう点では、これから教職につこうとする方々へおこがましく申し上げる必要もなさそうですが、ただ一つ、これだけはくれぐれも申し上げたいことは、健康ということだけは不可欠の条件であるということをございます。

極端に言えば、健康に自信のない人は教師になる資格なし、とも言えましょう。特に小中学校の教師は全くの重労働であり、ひよわい人にはとてととまるものではありません。また女性の立場からいつて、独りのうちほとととく、家庭を持ち子供とできて、更に仕事を続けていく場合は並大抵のことではやつていけません。勿論、家庭の環境や家族の理解も必要ですし、いわゆる根性も大切でしょうが、結局のところは健康がものをいうようです。

とう一つ、大学で学んだ専門知識が果して現場で役に立つものだろうかということですが、たしかに高校ならいざ知らず、小中学校では大学で学んだことをそのまま教えることはありません。しかし、基礎にしっかりとものがあるとないでは大違いなのは言うまでもないことで、専門知識はみっちり身につける必要があります。

ただそうかといつて、狭い専門分野にだけとととるのではなく、むしろ大いに読書をしたり、その他あらゆる機会にあらゆる手段で、できるだけ、見聞をひろめ、知識を深めて、巾の広い人間になろうとする努力こそ絶えず必要なことと思われます。

以上とりとめもないことを書くうちに紙面の余裕もなくなり、十分意を尽くすことができませんが、何とぞよろしく御賢察下さい。

≡ 私 の 近 況 ≡

昭和38年度卒

壺鳥 康子

なつかしい地理学教室を巣立ち、教職について一ヶ月余り、学生時代の気ままな生活から、朝八時出校という、一日の規則正しい生活になれようとするだけで、二ヶ月目を迎えようとしています。

あゆただしい新学期の諸行事をはじめ、何とかも新しいことばかりで、しばらくは取組室の片隅に固くなつて座つて居りながらも落ちつかない毎日でしたが、五月に入りようやく授業と軌道に乗れ自分の生活を取りとどしつゝあります。

今年は、担当はありませんが、授業は高一の地理をクラスとたされています。一つの教案をク回、同じことをしゃべるのですから大いに自分の勉強